

第152回エコ塾 in エコテクノ2025

北九州市における

GX

グリーン・トランスフォーメーション

の取り組みについて

2025年7月3日

北九州市 産業経済局 未来産業推進課

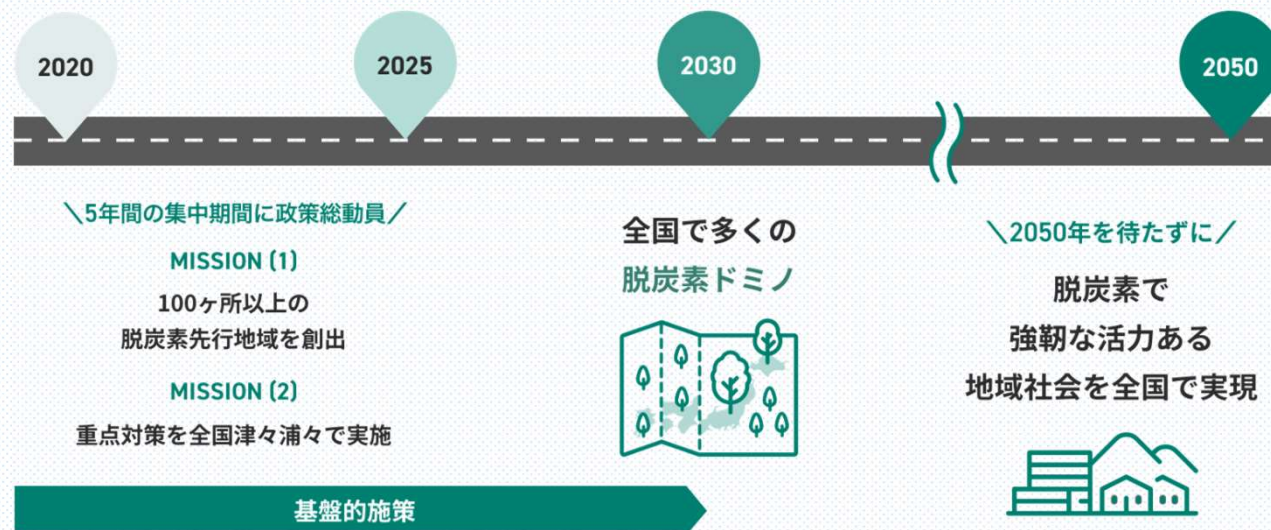
GX推進担当係長

百武 佳奈



GXとは？

- グリーントランスフォーメーション(Green transformation)の略称
- 化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと
- 目指すは、「カーボンニュートラルの実現」×「産業競争力の強化」

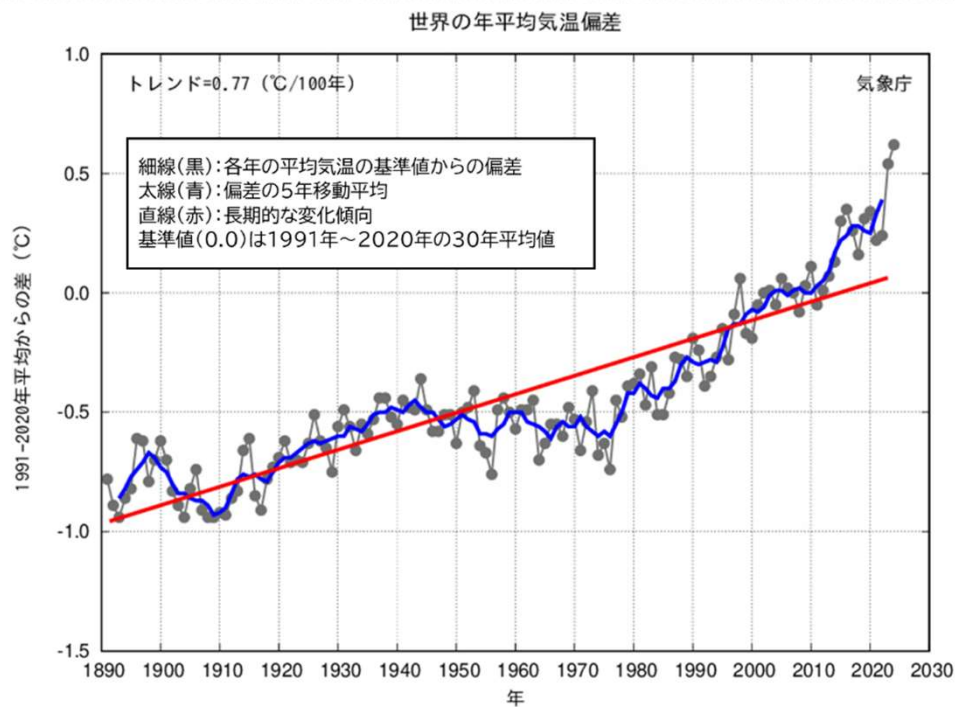


環境省「脱炭素ポータル」より抜粋

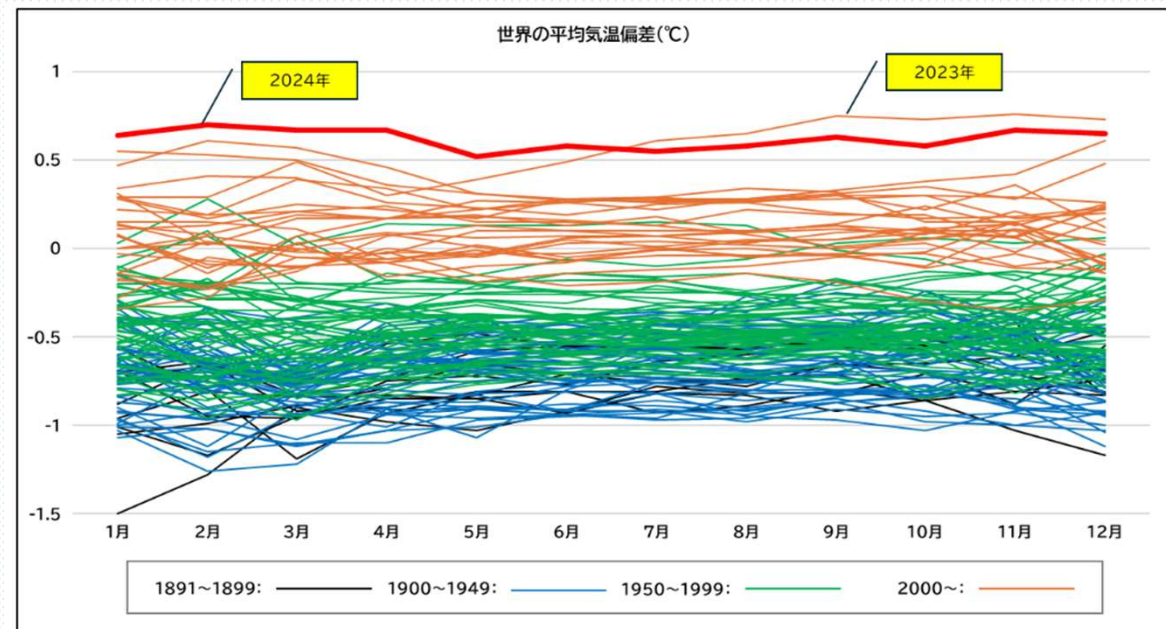
なぜGXに取り組むのか

上昇を続ける世界の気温

- 世界の平均気温は年々上昇し、産業革命以前と比べて1.5℃を超過(パリ協定の努力目標1.5℃)
- 2023年5月から2024年6月まで14ヶ月連続で月間平均気温の最高値を更新



出典: 気象庁「世界の年平均気温」に凡例を追記
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_wld.html

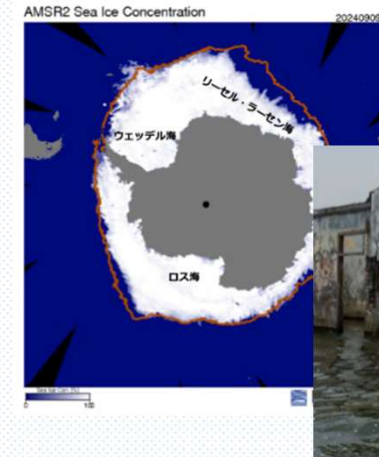


出典: 気象庁「世界の月平均気温偏差(°C)」から作成
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/list/mon_wld.html

なぜGXに取り組むのか

気候変動による物理的なリスク

- ✓ 台風の大型化による大雨、洪水、高潮、土砂災害、強風被害
- ✓ 干ばつによる水不足、山火事
- ✓ 大雪による家屋倒壊、交通遮断
- ✓ 気温上昇による熱中症、屋外作業制限、植生や漁場の変動、食糧不足
- ✓ 永久凍土の溶解による海面上昇、未知のウイルスの蔓延



出典:

Jリーグ公式YouTubeチャンネル掲載「サッカーができなくなる日!？」
全員に見てほしい、異常気象などを引き起こす気候変動の現状とその対策の必要性」
https://www.youtube.com/watch?v=_ctmoIfP0JI

なぜGXに取り組むのか

カーボンニュートラルの実現に向けて 気候変動による移行リスク

- 政策・法規制リスク
 - ✓ 炭素税などの規制強化、情報開示義務化の拡大、法規制に対応できない場合の罰則
- 技術リスク
 - ✓ 技術の進歩に乗り遅れる、新技術への投資失敗
- 市場リスク
 - ✓ 消費行動の変化・需要の変化、コストの変動
- 評判リスク
 - ✓ 市場からの評価・評判の低下、避難、訴訟

タダでCO₂を排出できる時代は終焉を迎える

なぜGXに取り組むのか



知る



測る



減らす

コスト削減！

脱炭素関連の事業に
儲けの筋があるのでは...

カーボンニュートラル実現には
さらなるイノベーションが必要

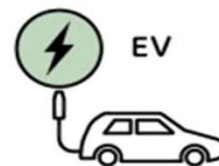
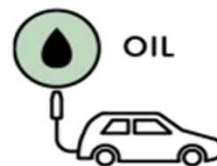


エネルギー使用量の削減



LED

省エネ機器への更新



EV

燃料転換



再エネ導入

加速するGX投資

今後10年間で**150兆円**の官民GX投資

分野別投資戦略

経済産業省ホームページ「分野別投資戦略」より抜粋

製造業

3兆円

鉄鋼

3兆円

化学

1兆円

紙パルプ

1兆円

セメント

運輸

34兆円

自動車

7兆円

蓄電池

4兆円

航空機

1兆円

SAF

3兆円

船舶

くらし等

14兆円

くらし

2兆円

資源循環

12兆円

半導体

エネルギー

7兆円

水素等

31兆円

次世代再エネ

1兆円

原子力

4兆円

CCS

北九州市はなぜ
GXに取り組むのか

北九州市のあゆみ

時代の最前線で常に新しいことに挑戦し、
多くの困難を乗り越えてきたドラマの豊富なまち

1901
官営八幡製鐵所

1920
東洋陶器

1925
安川電機製作所

1963
北九州市発足

2006
新・北九州空港開港

2011
・環境未来都市に選定
・OECDグリーン成長都市に
アジアで初選定

2022
脱炭素先行地域に選定

『ものづくりのまち』として日本の高度成長期をけん引
工業地帯へ

当時、世界で類を見ない五市対等合併により、九州初の
『百万都市』、『政令指定都市』として、北九州市が誕生

1900～

1950～

2000～

新たなドラマ
のスタート

●人口急増



▼激甚な公害が発生
「七色の煙」や「死の海」
▼「オイルショック後の鉄冷え」

公害を
克服

●エコタウンプロジェクト
【環境産業】

●学術研究都市【新産業】
(自動車・半導体等)

●洋上風力発電【環境産業】

温室効果ガスの排出状況

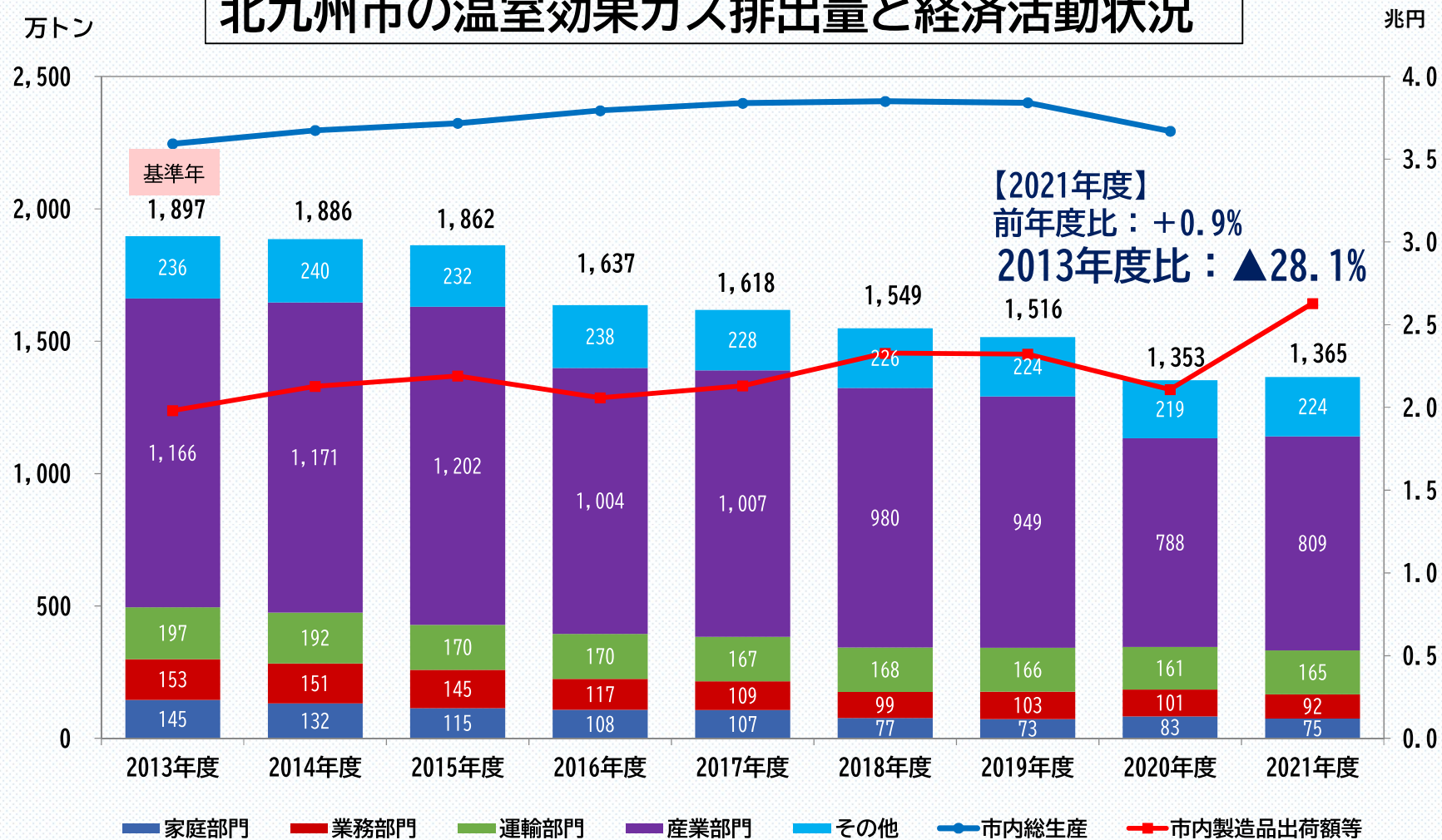
国内の温室効果ガス排出量



出典) 環境省資料

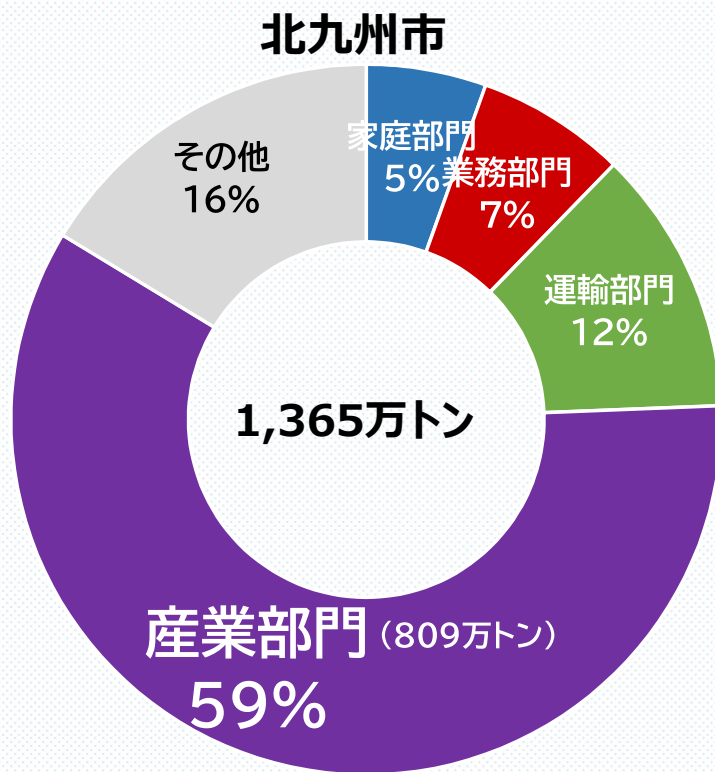
温室効果ガスの排出状況

北九州市の温室効果ガス排出量と経済活動状況

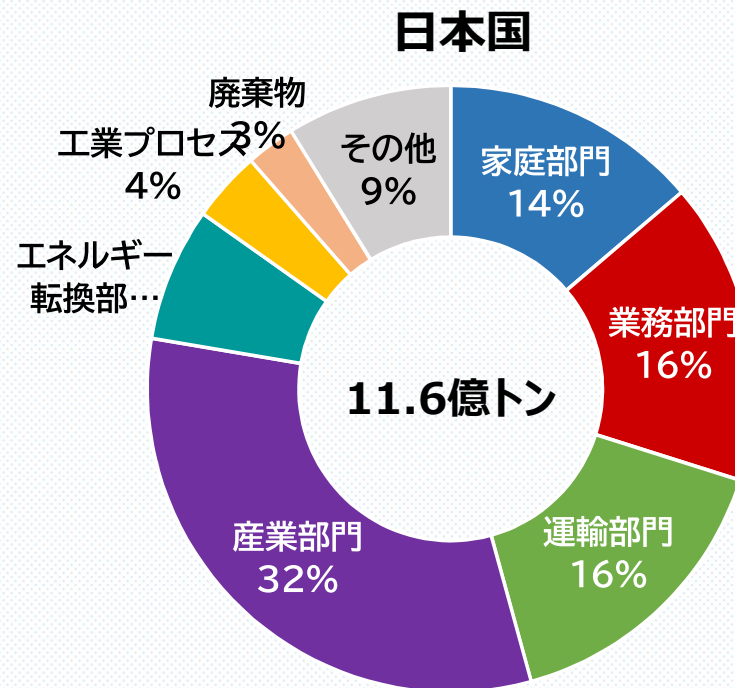


温室効果ガスの排出状況

北九州市の温室効果ガス排出量の部門別割合(2021年度)



※北九州市の「その他」は、エネルギー転換部門、廃棄物部門、工業プロセス部門、メタン、一酸化二窒素、フロンガスの計



出典) 国立環境研究所HPより

排出量全体の約 6 割を占める産業部門の取組みがカギ

北九州市のGXポテンシャル

北九州グリーンインパクト

サーキュラーエコノミー



シリコンスラリー リサイクル



太陽光パネル リサイクル



二次電池 リサイクル

日本最大級の
北九州エコタウン

資源循環産業と
製造業との
ネットワーク

GX産業立地
の最適地

水素・アンモニア



水素供給拠点の整備（2030年頃予定）

供給側

発電量 政令市 **1位**

再生可能エネルギー

太陽光発電 316Mw
風力発電 36Mw
バイオマス 95Mw

洋上ウインドファーム
R8年度中
運転開始予定

220
Mw

（環境省 令和4年度自治体排出量カルテを参照）

需要側

後工程
世界最大手

半導体関連工場



北九州学術研究都市

九州最大級
120Mw

AIデータセンター



商用EVバスメーカー

大阪万博
100台納車



生産能力
最大200万t/年

日本製鉄電炉化

北九州GX MAP



若松エリアを GX総合拠点へ



半導体関連工場

AIデータセンター

北九州學術研究都市

さらなる
GX加速化に向けて

北九州GX推進コンソーシアム



産学官金オール北九州による
「北九州GX推進コンソーシアム」を設立。(R5.12)



↑ 設立総会(令和5年12月12日)
日本製鉄、TOTO、安川電機、ゼンリン、
九州電力、西部ガスなど・参加会員 約

320
社

会長	北九州市長
副会長	北九州商工会議所会頭、北九州産業学術推進機構理事長
産	北九州商工会議所、北九州中小企業団体連合会 GXの知見を持つ企業、GXを推進する企業
学	北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学、福岡大学 北九州工業高等専門学校、地球環境戦略研究機関(IGES)
官	経済産業省、環境省、福岡県、北九州市 北九州産業学術推進機構(FAIS) 【事務局】北九州市、FAIS
金	金融機関

「グリーンとテクノロジーの掛け合わせ」

「一歩先の価値観」

北九州市の強みを生かしてGX投資を呼び込む

環境政策、気候変動対策の第一人者 !!

北九州GX推進コンソーシアム顧問

東京大学未来ビジョン研究センター



高村ゆかり 教授



江守正多 教授

最先端の知見を北九州市でも

北九州GX推進コンソーシアムの取組み



GXによる北九州市の成長に向けた取組みを展開

北九州GX推進コンソーシアムの主な活動

産学官金
「共創」の場

先端テーマ別研究部会設置

- 次世代燃料、カーボンサイクル・マテリアルなど

設立同時
スタート

ワンストップ相談窓口開設

- 専門家による伴走支援を実施

全国初

GXビジネススクール開講

- 令和6年1月、10月開講

国内最大
規模

地域企業のCO₂把握支援

- 可視化ツール無償提供

変革推進
ビジネス創出

GX推進補助金

- 令和7年度事業費1,000万円

GXによる地域企業の変革をコンソーシアムが支援

先端テーマ別研究部会の実施

グリーンLPガス実証など、学術研究都市の知見をフル活用

次世代燃料、カーボンリサイクル・マテリアル部会

24/5/23 キックオフシンポジウム

『カーボンリサイクルの技術革新と
産業連携の可能性』 @学研都市

- ・講演
国際大学 橘川氏、西部ガス 江夏氏、
日本LPガス協会 三木田氏
- ・パネルディスカッション



24/10/1 ワークショップ

@北九州エコタウンセンター

- ・グリーンLPガス実証設備見学
- ・参加者でのグループディスカッション



半導体部会

24/8/27 セミナー @学研都市

『GXを支える半導体』



- ・講演
日本シノプシス 河原井氏、東芝 大幸氏

自動車部会

24/7/4 セミナー @西日本総合展示場

『パーツネット北九州自動車産業セミナー』

24/8/8 北九州自動車推進ネットワーク講演会

『日本版GPSと高精度衛星測位の
自動運転への応用』 @国際会議場

24/10/28 ワーキンググループ立上げ @学研都市

パーツネット北九州でのGX(省エネ等)
推進の取組み

- ・令和6年度3回開催(24/10、24/12、25/2)
- ・3月以降デンソー九州による専門家派遣開始



4 部会組成
関連セミナー **12** 回

新しい技術を社会実装につなげていく「共創」の場を形成

先端テーマ別研究部会の実施

未来共創部会

宇宙

24/5/17 セミナー @COMPASS小倉
『次世代の宇宙ビジネス戦略』



学研都市脱炭素化 @学研都市

24/5/31第1回会合
『北九州学術研究都市の脱炭素化に向けて』

- ・各大学とのディスカッション開始
- ・エックス都市研へ調査業務委託

25/1/16-17 ESCO事業事例視察 @大阪

25/2/17第2回会合(ハイブリット開催)

- ・ESCO事業の可能性と今後の取組みの進め方の方向性について協議



建築物(木造建築)

24/12/11 講演会 @学研都市・北九大
『GXから見た近未来の木造建築を考える』
・講演 東京大学 腰原氏、近畿大学 藤田氏、
大英産業 一ノ瀬氏、北九大 福田氏
・パネルディスカッション
・高機能木材研究所見学



建築物(ZEB等)

25/2/19 シンポジウム @ホテルクラウンパレス小倉
『サステナブル社会に向けたこれからの環境建築』
・基調講演 早稲田大学 田辺氏
・講演 佐藤総合計画 田村氏、ミクニ竹内氏
北九大 上野氏、市都市戦略局 一瀬氏
・パネルディスカッション
モデレータ 北九大 白石氏
登壇者 講演者、市都市整備局 石原氏



カーボンのクレジット

『泥炭火災カーボン
クレジット事業化研究会』
@学研都市

24/10/23
第1回研究会

25/3/13
第2回研究会



早稲田大学・田辺教授

北九州GXエグゼクティブ・ビジネススクール

経営層向けGXビジネススクールを北九州市が開発

- 経営層を対象にGXに向けたマインドセット講座を開催
- 講義形式とワークショップを毎回開催

第1期：令和6年 1月19日～ 3月 1日（全6回） 受講者 15社 27名
第2期：令和6年10月11日～11月15日（全6回） 受講者 10社 16名

カリキュラム

第1回 GXを捉える
第2回 自社の立ち位置を明確にする
第3回 自社GHG排出量を知る・測る・減らす
第4回 自社の製品・サービスのGX化
第5回 GXを実現するための手段
第6回 GX実現のためのアクションプラン

主な講師陣

TOYOTA 日本IBM デンソー九州

ウイングアーク1st メンバース

満足度
100%

IGES
公益財団法人
地球環境戦略研究機関



20社 43名
受講



ビジネススクール
ワークショップ

各社がアクションプランを作成、脱炭素経営の次のステージへ

北九州GXエグゼクティブ・ビジネススクール

第3期: 2025 **9.5** 開校 隔週金曜日 全6回(9/5、9/19、10/3、10/17、10/31、11/14)

対 象: 企業の経営者・経営幹部層・次世代を担う若手社員(先着15社)

受講料: 1社 99,000円(税込) 1社2名まで受講可能

会 場: 【初回(9/5)】ミクニワールドスタジアム
【2回目以降(9/19~)】コンパス小倉

スケジュールとプログラム (簡易版)

受講生を目指す方 ▶ 自社のGX経営を語るようになる!

KTQ-GX
Challenge 2030

月/日	第1回: 2025年9月5日(金)	第2回: 2025年9月19日(金)	第3回: 2025年10月3日(金)	第4回: 2025年10月17日(金)	第5回: 2025年10月31日(金)	第6回: 2025年11月14日(金)
テーマ	GXに推進する国内外の動向	GXのエンゲージメント	事業活動の脱炭素化	脱炭素ソリューションの開発	GXを実現するための手段	GX実現のためのアクションプラン
場所	ミクニワールドスタジアム北九州	コンパス小倉	コンパス小倉	コンパス小倉	コンパス小倉	コンパス小倉
09:30	開会式・開校式 アイスブレイク	開校の振り返り 自動車のGX関連動向	開校の振り返り 温室効果ガス排出量の見える化	開校の振り返り 低コストで進める脱炭素化と脱炭素化のソリューション作りでGXを実現	開校の振り返り GX分野における地元大学の企業支援	開校の振り返り アクションプラン発表
10:30	脱炭素経営入門 気候変動時代の競争力	Coming soon! 金融業界のGX関連動向	脱炭素経営入門 気候変動時代の競争力	脱炭素経営入門 気候変動時代の競争力	脱炭素経営入門 気候変動時代の競争力	脱炭素経営入門 気候変動時代の競争力
11:00	国内のGX・脱炭素政策の動向	GX経営で企業価値を向上	脱炭素化を事業強化の機会に	デジタルツインでGXを実現	行政による支援メニュー	アクションプラン発表
12:00	修了生からの活躍提供	ワークショップ: シナリオ分析	省エネによるエネルギーコスト削減	ワークショップ: GX時代の環境型ビジネスモデル構築の要点を理解する	北九州市の関連制度	スクールの振り返り
13:00	交流会 (自由参加)	交流会 (自由参加)	交流会 (自由参加)	交流会 (自由参加)	交流会 (自由参加)	交流会 (自由参加)



申込締切 **2025 8.28**

先着順

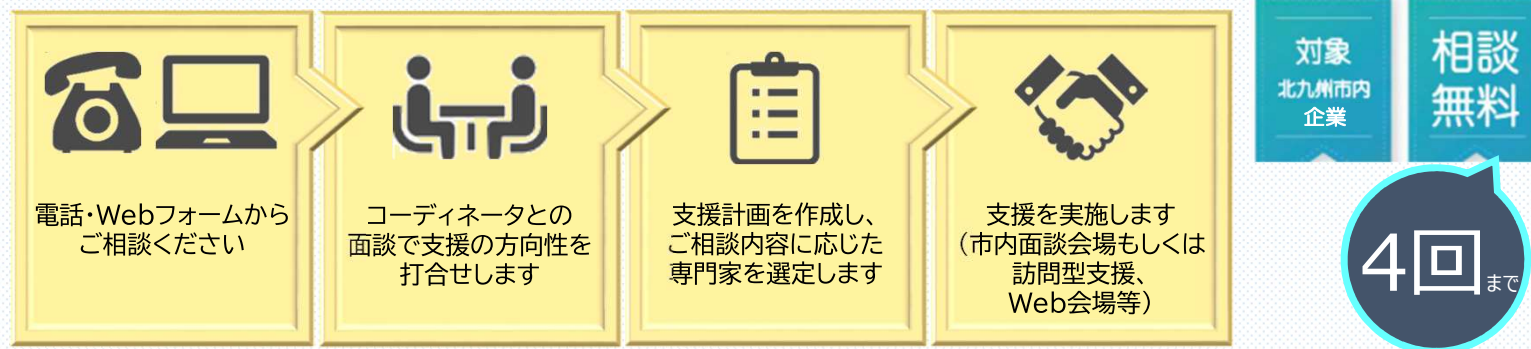
申し込みはこちらから→
※定員(15社)になり次第締め切ります。
<https://crm.iges.or.jp/public/application/add/6467>



7月より受講者募集中!

ワンストップ相談窓口・専門家派遣

グリーン成長を目指す企業の相談窓口を設け、
GXの知識・技術を有する「専門家」による伴走支援を実施



令和7年6月まで

25件
相談対応中

- ・算定したCO2排出量の妥当性評価
 - ・工場の生産ライン見直し
 - ・省エネ、補助金活用支援
 - ・協業支援企業発掘
- など

専門家による課題解決に向けた伴走支援

ワンストップ相談窓口・専門家派遣

登録専門家（R6.9月末現在）：**16社** ※随時追加中

金融

東京海上日動火災保険会社
【GX推進に伴うリスクマネジメント】

三菱UFJ銀行

カーボンニュートラルに
向けた改善支援

生産ライン

デンソー九州、ドーワテクノス【IT導入】

その他

スタートアップ、中小企業支援、企業立地補助・・・

タンソーマンGX
プレイスメント

【国内外の最新動向、ロードマップ策定】

IGES

公益財団法人
地球環境戦略研究機関

省エネ・再エネ

九州電力、西部ガス、
エネルギーマネジメント協会
【省エネ補助金】

事業変革・新分野参入
計画策定支援

アップルツリー 【国内外の最新動向】

アルファコミュニケーションズ

フォーバル 【中小企業の循環経済型ビジネス支援】

メンバーズ

【企業・商品単位のCO2排出量データの算定・可視化】
【循環経済モデルによるサービス開発運用】
【社員・取引先に向けたGX意識改革】
【GX関連取組みの企業情報発信・CSVマーケティング】

日本電通

環境技術など

環境テクノス 【LCA,Jクレジット】

IT導入
など

すべてワンストップ
相談窓口で受け付け 25

地域企業のCO₂把握支援

企業のGXに向けた取り組みの第一歩は、CO₂を把握するところから・・・

北九州GX推進コンソーシアムでは
CO₂ 排出量可視化ツールを
無償提供

※ 希望する市内企業

現在のCO₂見える化ツール
利用企業数
(令和7年6月現在)

32
社



コンソーシアムがアカウントを付与
無償・無期限で使用できます

自社のCO₂を把握して、次のアクションへ

G X推進補助金

地域企業のGXビジネスモデル変革・新ビジネス創出を推進

R7事業費 1,000万円

交付上限 500万円
補助率 1/2
補助対象者 市内事業者

これらに関する取組みを支援

- 自社製品・サービスのカーボンニュートラル化
- 新商品・新サービス開発
- 政府が掲げるGX重点分野への進出

市場調査、事業計画策定、市場開拓、試作品製作 等

申請提出期間 令和7年5月1日(木)～令和7年6月6日(金)



GXで企業価値を高める取組みを支援します

北九州GX推進コンソーシアム
加入申請はコチラから

令和7年度
GX推進補助金公募 5/1 START

北九州市の地域企業のGXの取組みの推進と企業価値の向上を図り、北九州市におけるGXに資する新ビジネスの創出及び官民GX投資を促進することを目的として、北九州産業学術推進機構GX推進補助金事業を実施します。

以下のような取組みを支援します

- ☒ 自社製品・サービスのカーボンニュートラル化
- ☒ 新商品・新サービス開発
- ☒ 政府が掲げるGX重点分野への進出

補助率 1/2
企業価値 不問
交付上限 500万円

市場調査、事業計画策定、市場開拓、試作品製作 等

補助対象者 北九州市内に事業所（本社、支店、営業所、工場等）を有する者であること。
(後 附) 北九州GX推進コンソーシアムに入会していること。
自社の温室効果ガスの排出量算定に着手していること。 等

補助対象経費	経費項目
大項目	中項目
I 物品費	土木・建築工事費、機械装置等製作・購入費、消耗品費、保守・改修費
II 労務費	従業員費、補助員費
III その他経費	旅費、外注費、知的財産権関連経費、諸経費 ※旅費は1～11月合計額の20%以内

補助対象期間 公募開始日(5月1日)～令和8年1月30日

▶申請書提出期間: 令和7年5月1日(木)～令和7年6月6日(金)

本補助金の詳細や申請書様式は、4月1日より下記のホームページで、ダウンロードできます。
北九州学術研究都市ホームページ <https://www.ksp.or.jp/collaboration/gx/grant.html>

提出先・お問い合わせ
公益財団法人北九州産業学術推進機構 FAISU TEL:093-695-3006 FAX:093-695-3018
GX推進センターGX推進部 担当:三浦、橋本 E-mail: tais-gx@head.ksp.or.jp

〒808-0135 北九州市若松区Dビルの2階1号

GXで企業価値を高める企業の取組みを支援

地域企業の変革に向けたロードマップ

ステップ1（気づき）

ステップ2（準備）

ステップ3（実行）

セミナー・実践事例紹介

GXエグゼクティブ・
ビジネススクール

CO₂可視化ツール無償提供

ワンストップ相談
専門家による指導
・伴走支援

テーマ別部会設置

GX関連事業化支援
（GX補助金等）

ビジネスモデル変革・
新ビジネス展開

ビジネスモデル変革・新ビジネス展開に向けて総合的に支援

地域企業の取組事例



ものづくり現場の脱炭素に挑戦する



溶接レスの新工法

松本工業株式会社



地産地消の推進

大英産業株式会社



デジタル化と再エネ

株式会社西原商事



健康な体ときれいな水を守る。

シャボン玉石けん

環境保全と経営の両立

シャボン玉石けん株式会社



北九州GX推進コンソーシアムのこれまでの成果



熱のカーボンニュートラルへ挑戦!!

IHI、日本IBMと熱マネジメント実証に着手
(R6年1月18日発表)

北九州市での生産活動再開は17年ぶり!!

AGCが水素製造関連製品の新プラント建設決定
(150億円、R6年1月30日発表)

AGC

全国3拠点の1つ!!

メンバーズが「地域脱炭素DXセンター」を開設
(R6年1月31日発表)



Members

GXを推進し、北九州市を「稼げるまち」へ

これからの主な動き

地域企業のGXへの取り組みを促進

GXへの取り組みをアピールする仕組みを検討

(例: ギラヴァンツ北九州・Jリーグとの連携)

会員企業同士のオープンイノベーションを推進

(例: ネットワーキングイベント、パネルセッション)



投資促進に向けた金融機関等との連携

金融分野の第一線の方々をはじめとした連携を強化

独自のサステナブルファイナンスの検討



Future
Design Initiative by
Science and
Finance



GX産業立地の実現に向けて

北九州市の持つ多様なポテンシャルを活用

世界を先導する「グリーン×テック シティ Kitakyushu」を目指す

GXを推進し、北九州市を「稼げるまち」へ

Kitakyushu
Action!

動かせ、未来。北九州市